

SAN-EI

定量止水自在水栓

T-A44-B4 AAJ

PA44

施工・取扱説明書

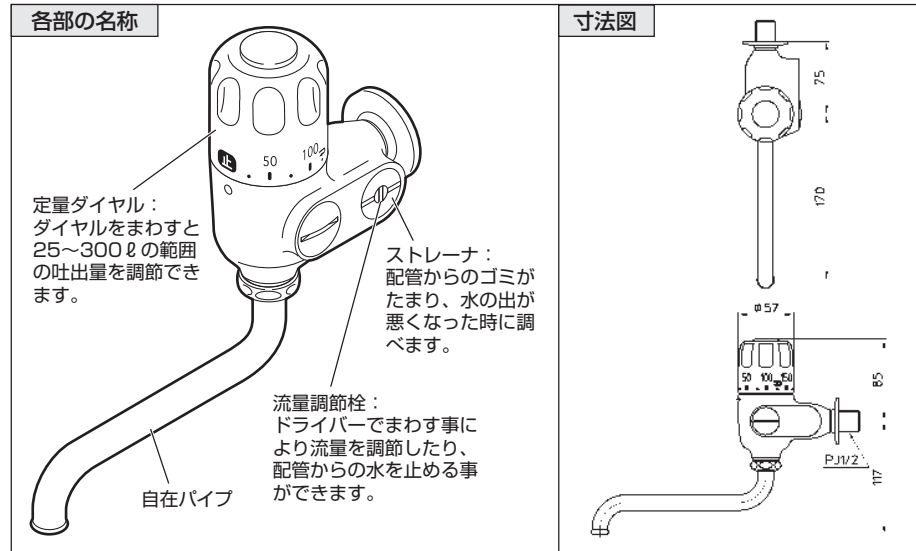
ご使用前にこの説明書をよくお読みの上、正しくご使用ください。

お客様へ
お読みになった後は、お使いになる方がいつでも読める所に必ず保管してください。

工事店様へ
施工後、この説明書をお客様へお渡しください。

本製品について 各部の名称・寸法図

●浴槽の大きさに合わせて、あらかじめダイヤルをセットしておけば、湯水が指定の量になると自動的にストップします。



本製品について 施工・ご使用に関する安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、試験運転を行い異常がない事を確認すると共に、工事店様は説明書に沿ってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- 施工は、水道法、その他の関係する法規などに従って行ってください。

用語および記号の説明

- 警告** …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じる事が想定されます。」
- 注意** …… 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」
- ⚠ …… 「注意しなさい!」(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。)
- ⊘ …… 「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)
- 🚫 …… 「分解してはいけません!」
- 👉 …… 「指示した場所に触れてはいけません!」
- 📢 …… 「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)

警告

- ⊘ 小さいお子様だけのご使用は、避けてください。やけど・けがをするおそれがあります。

注意

- ⊘ 修理技術者以外の人は、水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。
- ⚠ ストレーナの掃除をする際は、いきなりストレーナを緩めずに、流量調節栓を閉めてから行ってください。湯水が噴き出して、やけどや家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ⊘ 同梱の部品以外は使用しないでください。故障や水漏れの原因になります。
- ⊘ 凍結が予想される地域には、取付けないでください。凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ⚠ 使い始めの水がお湯の場合は、しばらく流してからお使いください。しばらく使われないと、水栓内の水は消毒用の塩素が少なくなり、におうことがあります。
- ⊘ 製品に強い力や衝撃を与えないでください。故障や漏水の原因になります。
- ⊘ 分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。器具が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ⊘ 給湯温度は80℃より高温で使用しないでください。80℃より高温でご使用になると、器具の寿命が短くなり、水栓が破損し、水漏れのため家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ⊘ 高温の湯をお使いのときは、吐水口や本体に直接肌を触れないでください。高温になっているのでやけどをするおそれがあります。
- ⚠ 湯をお使いの後は、しばらく水を流してから止水してください。次に使用する際、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。
- ⊘ 吐水口先端に重いものを下げたり、力をかけて回したりしないでください。摩耗、変形などでパッキンの寿命が短くなり、吐水時に吐水口から微少の水がにじみ出るおそれがあります。
- ⊘ 解氷機やアースを水栓に通電しないでください。水栓が発熱で破損し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ⊘ 定量ダイヤルの自動回転をさまたげないでください。吐水中、回転をさまたげると、本体内部の定量止水カートリッジが破損し、定量止水しなくなるおそれがあります。

注意

- ⊘ 流量(水勢)を極端に絞らないでください。流量が少なすぎる(水勢が弱い)と、精度が悪化したり、定量止水しなくなるおそれがあります。

施工について 適切な使用条件

(仕様)

使用可能水圧	最低水圧：0.1MPa(流動時) 最高水圧：0.75MPa(静止時)	吐水量精度保証水圧	最低水圧：0.1MPa(流動時) 最高水圧：0.3MPa(静止時)
使用可能温度	5～80℃	吐水量精度保証温度	5～50℃
吐出量設定範囲	25～300ℓ	吐水量精度保証流量	5～20ℓ/min
吐水量精度	±20%以内		

(水圧について)

給水・給湯圧力	最低必要水圧(流動時)	最高使用水圧(静止時)
	0.1MPa	0.75MPa

●給水・給湯圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁などで0.2～0.3MPa程度に減圧してください。

(給湯機について)

使用最高温度	80℃以下
--------	-------

- 給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするために最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
- 誤作動などによるやけど防止のため、50～60℃給湯をおすすめします。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。

(水質・用途について)

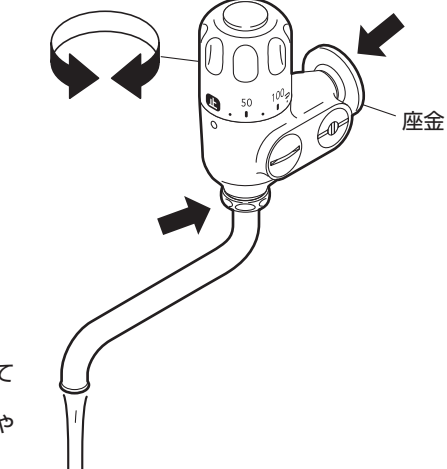
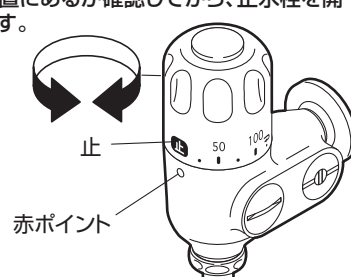
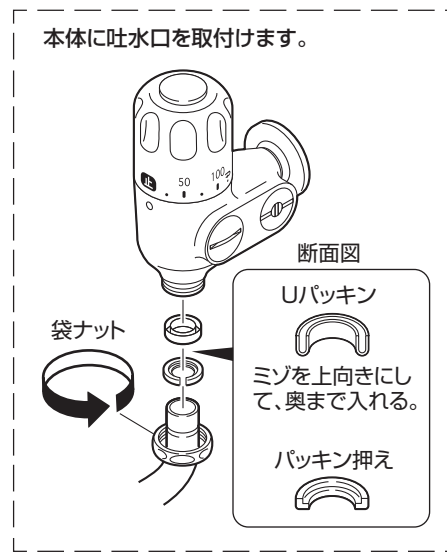
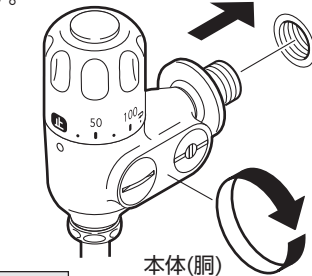
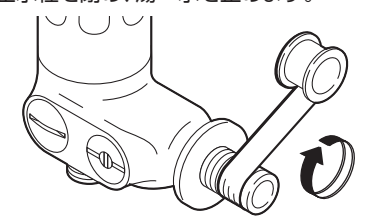
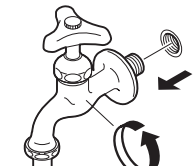
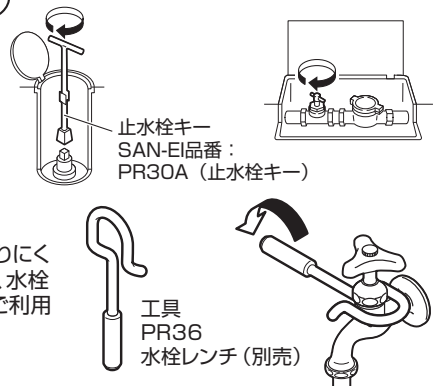
使用可能水質	水道水及び飲用可能な井戸水
用途	一般住宅用

施工について 施工前のご注意

- 給水は、上水道に接続してください。
- 開梱、施工の際は製品に傷をつけないようご注意ください。

施工について 施工手順

- 止水栓を閉めます。**
既設の水栓ハンドルを開いて、止水の確認をします。
- 既設の水栓をはずします。**
●水栓が回りにくい場合は、水栓レンチをご利用ください。
- 配管の掃除をします。**
配管内のシールテープくずやゴミをきれいに取除きます。
- 通水します。**
取付前に必ず通水し、配管内のゴミを洗い流します。
- 止水します。**
止水栓を閉め、湯・水を止めます。
- 水栓取付ねじに、シールテープを巻きます。**
ねじに向かって右向きに、5回程度少し引張りながら、ねじにくい込むように巻きます。
- 配管に本体を取付けます。**
本体(胴)部分を持って配管(壁面など)に固定します。
- 本体に吐水口を取付けます。**
●注意
漏水の原因になります。本体は絶対に逆方向へゆるめないでください。もしもゆるめてしまった場合は、手順6をもう一度はじめて行ってください。
- 定量ダイヤルの「止」の位置が、赤ポイントの位置にあるか確認してから、止水栓を開けます。**
- 定量ダイヤルをまわして通水し、水漏れをチェックします。**
接続後、各部に水漏れがないか必ず確認してください。水漏れがある場合は、もう一度はじめてやり直してください。最後に座金を壁面に締付けて完了です。



ご使用について 定量吐水・通常吐水・止水

定量吐水

吐水 → 定量ダイヤルを回し、希望の吐水量(ℓ)の目盛を赤ポイントに合わせます。

止水 → 定量ダイヤルが回り、自動で水(湯)が止まります。

●目盛の目安
定量ダイヤルの目盛りは、およその吐出量です。実際に、湯水をためてみて浴槽に合った湯量を確認してください。

⚠️注意
吐水量100ℓ未満の設定の際には、まず定量ダイヤルの目盛を100ℓ以上で赤ポイントに合わせ、次に定量ダイヤルを戻しながら希望の吐出量に合わせてください。止水不良になる場合があります。

① 100ℓ以上の目盛に合わせる。
② 希望の吐水量(ℓ)に合わせる。
※ダイヤルはおよその吐水量です。

通常吐水

吐水 → 定量ダイヤルの目盛を矢印から100~300ℓの間で赤ポイントに合わせると水(湯)が出ます。

止水 → 「止」の位置に合わせてと止まります。

100~300ℓの間の目盛に合わせる。

ご使用について 流量(水勢)調節

本製品は工場出荷前に調整済ですが、取付現場の圧力などの条件により十分な流量が得られない場合は調整が必要です。流量調節栓をドライバーでまわす事により流量(水勢)を調節したり、配管からの水を止める事ができます。

流量(水勢)を絞すぎますと、精度が悪化したり、定量止水しなくなるおそれがあります。目盛が「150」の時、少なくとも30分以内で止水するくらいの流量(水勢)でご使用ください。

流量(水勢)が多くなる
流量(水勢)が少なくなる

ご使用について 凍結予防

凍結のおそれがある場合は、次の処置によって凍結を予防できる場合があります。

- 配管部などに保温材を巻いてください。
- 屋内の窓を閉めるなどして水栓周囲の温度が氷点下にならないようにしてください。
- ※凍結による破損は保証期間内でも有料修理となります。



日頃のお手入れ 汚れの拭き取り

製品についた汚れを放置しておく、汚れが落ちにくくなる場合があります。快適にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。

- 柔らかい布で水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。
- 汚れが目立つときは、中性洗剤を柔らかい布にふくませて拭き取った後水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。

⚠️注意

次のものは使用しないでください。変色や傷みのおそれがあります。

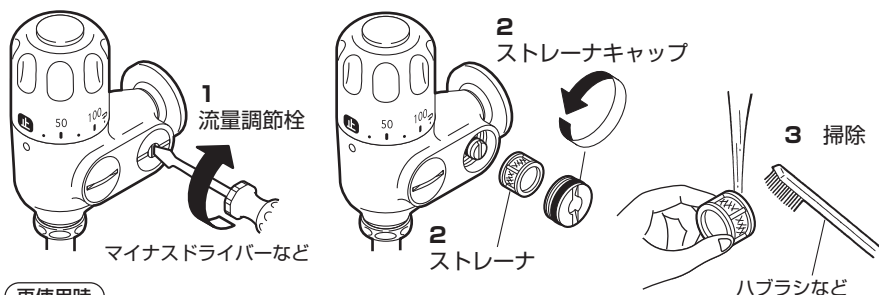
- 酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類
※特に酸性洗剤はメッキを侵します。
- ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコールなどの溶剤や油類
- クレンザーなどの粒子の粗い洗剤
- ナイロンたわしなど

洗剤・薬品が本体に付着した場合は、すぐにきれいに拭き取ってください。本体の割れや変色変質の原因となります。

日頃のお手入れ ストレーナの掃除

ストレーナの汚れを放置しておく、十分な機能を発揮できないことがあります。快適・衛生的にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。(近所で水道工事があつたり、長期間使用し湯水の出が悪くなった場合にも、汚れの点検・お手入れをおすすめします。)

- 1 流量調節栓を右にまわし、止水します。
- 2 ストレーナキャップ・ストレーナをはずします。
- 3 ハブラシなどで網部分を掃除します。



再使用时

- ストレーナキャップが確実に閉まっているか確認してから、通水してください。
- 十分な流量(水勢)が得られない場合は調整が必要です。参照:「流量(水勢)調節」

定期的な点検 可動部分の点検

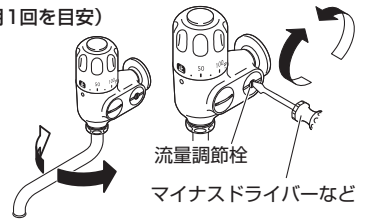
可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。放置すると故障の原因になりますので、修理をご依頼ください。吐水口・流量調節栓の点検については下記を参照ください。

日頃から、ときどき吐水口・流量調節栓を回してください。(月1回を目安)

流量調節栓を回す際は設定位置を確認し、回した後に元の位置に戻してください。参照:「流量(水勢)調節」

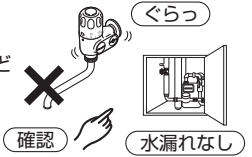
吐水口・流量調節栓を長期間回さずに使用すると水あかなどが付着し、無理に回そうとすると、水漏れ・異音の発生の原因になります。

吐水口・流量調節栓が回らなくなった場合は、修理をご依頼ください。



定期的な点検 配管周りの水漏れ・器具のガタツキ

定期的に、配管周りの水漏れがないか確認してください。(年2回を目安)
定期的に、器具のガタツキがないか確認してください。(年2回を目安)
劣化・摩耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



漏水を確認した場合は、配管中の元栓を閉めてください。

こんなときは 故障? その前に

修理をご依頼される前に、次の表に従って点検してください。

現象	原因	点検
流量(水勢)が少ない	流量調節栓は開いていますか。	流量調節栓で流量を調節する。
	ゴミづまりはありませんか。	ストレーナ・吐水口の掃除をする。
水が止まらない。(定量止水しない。)	定量ダイヤルの合わせかたにまちがいはないか。	一旦、定量ダイヤルの目盛を100ℓ以上で赤ポイントに合わせてから、希望の吐水量(ℓ)に合わせる。
	定量ダイヤルの回転をさまたげていないか。	障害物を取除く。
	流量調節栓は開いていますか。	流量調節栓で流量を調節する。
吐出量(ℓ)が大きくくろう。	定量ダイヤルの合わせかたにまちがいはないか。	一旦、定量ダイヤルの目盛を100ℓ以上で赤ポイントに合わせてから、希望の吐水量(ℓ)に合わせる。
	定量ダイヤルの回転をさまたげていないか。	障害物を取除く。
水はねが気になる		流量調節栓で流量を調節する。

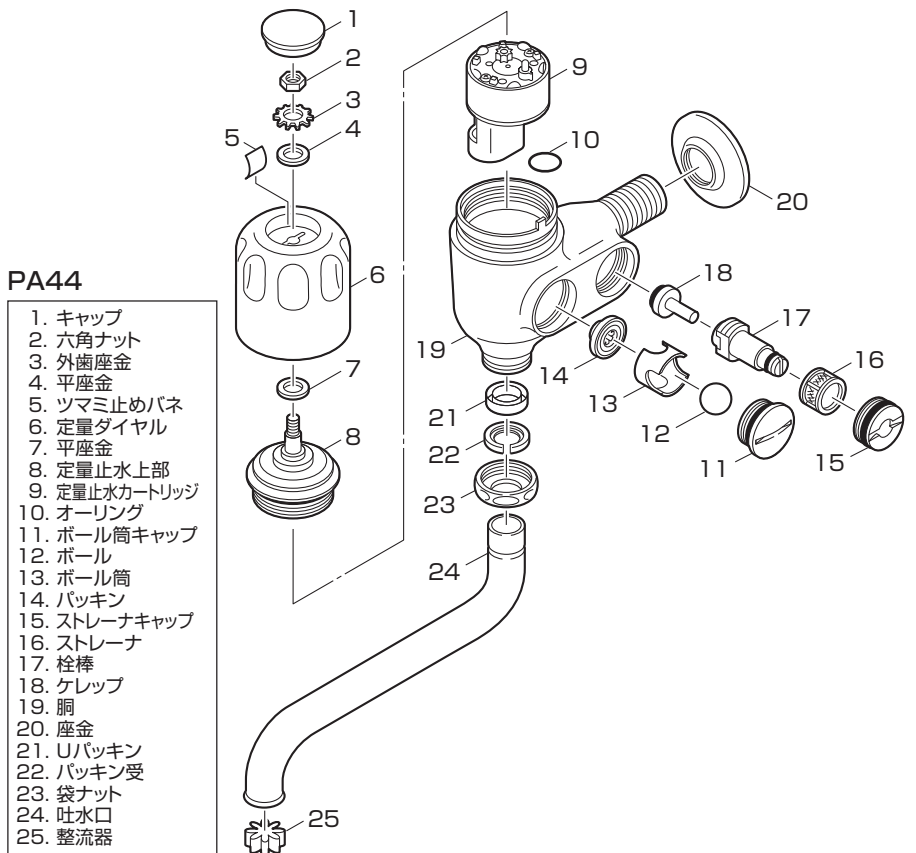
以上の点検を実施されても、不具合がなくなる場合はお手数ですがお買上げの販売店(工事店)に修理をご依頼ください。

⚠️注意

- 定量止水カートリッジ内部は精密加工されていますので、絶対に分解しないでください。

こんなときは 本製品の構造

器具の構造を表したイラストです。構造をご理解いただくのにご使用ください。



本社
〒537-0023 大阪市東成区玉津1丁目12番29号
お客様相談室
大阪 ☎(06)6976-8661 東京 ☎(03)3683-7496
株式会社 三栄水栓製作所 | フリーダイヤル ☎0120-06-9721

SANEI

- | | | | |
|---------|----------------|-------|----------------|
| 東京支店 | ☎(03)3683-7471 | 横浜営業所 | ☎(045)929-0331 |
| 名古屋支店 | ☎(052)800-8688 | 金沢営業所 | ☎(076)268-7751 |
| 大阪支店 | ☎(06)6972-6981 | 京都営業所 | ☎(075)605-5761 |
| 札幌営業所 | ☎(011)782-5353 | 神戸営業所 | ☎(078)843-9231 |
| 盛岡営業所 | ☎(019)605-7301 | 広島営業所 | ☎(082)922-3631 |
| 仙台営業所 | ☎(022)258-6251 | 四国営業所 | ☎(089)982-5071 |
| 新潟営業所 | ☎(025)281-1291 | 福岡営業所 | ☎(092)674-1230 |
| さいたま営業所 | ☎(048)625-4741 | 熊本営業所 | ☎(096)385-7161 |
| 東京西営業所 | ☎(042)582-7141 | 沖縄営業所 | ☎(098)869-0890 |

ホームページ <http://www.san-ei-web.co.jp>